

別添

## 第35回全国環境研究所交流シンポジウム

# 「変わりゆく環境・生態系・人の関わりを考える」

令和2年2月13日(木)～14日(金)  
於 国立環境研究所 大山記念ホール

2月13日(木)

司会：岩崎 一弘(国立環境研究所)

14:30～14:35 開会挨拶

国立環境研究所 理事長 渡辺 知保

14:35～14:40 来賓挨拶

環境省大臣官房総合政策課 環境研究技術室長 関根 達郎

### セッション1：気候変動適応に関わる取り組み

座長：肱岡 靖明(国立環境研究所)

- (1)14:40～15:00 「気候変動適応法と国立環境研究所の役割」  
○藤田 知弘(国立環境研究所)
- (2)15:00～15:20 「気候変動適応研究に関する話題提供」  
○西廣 淳(国立環境研究所)
- (3)15:20～15:35 「高解像度気温観測データによる熱中症リスクの地域性の検討」  
○大和 広明(埼玉県環境科学国際センター)
- (4)15:35～15:50 「気候変動適応を推進するために必要な情報とは？」  
○浜田 崇(長野県環境保全研究所)
- (5)15:50～16:05 「長野県における気候変動・異常気象の詳細解析」  
○栗林 正俊(長野県環境保全研究所)

16:05～16:15 (討論)

16:15～16:25 (休憩)

別添

## セッション 2: プラスチック問題と資源循環

座長: 大迫 政浩(国立環境研究所)

- (1)16:25~16:55 「プラスチック問題と資源循環」  
○石垣 智基(国立環境研究所)
- (2)16:55~17:10 「プラスチック資源循環と化学物質管理」  
○鈴木 剛(国立環境研究所)
- (3)17:10~17:25 「海岸域におけるマイクロプラスチック等の実態調査について」  
○伊藤 彰(静岡県環境衛生科学研究所)
- (4)17:25~17:40 「相模湾沿岸域における漂着マイクロプラスチックの実態調査結果」  
○坂本 広美(神奈川県環境科学センター)

17:40~17:50 討論

\*\*\*

18:10~19:45 懇親会 (会場: 国立環境研究所 中会議室) ※事前希望者のみ

2月14日(金)

司会: 岩崎 一弘(国立環境研究所)

## セッション 3: 湖沼・閉鎖性水域

座長: 松崎 慎一郎(国立環境研究所)

- (1)9:00~9:15 「複数の浅い湖沼での底層の貧酸素化  
—高頻度 DO ロガーデータから読み取れること—」  
○高津 文人(国立環境研究所)
- (2)9:15~9:30 「メタン由来炭素の寄与:底生無脊椎動物から魚まで」  
○土屋 健司(国立環境研究所)
- (3)9:30~9:45 「水質からみる琵琶湖南湖の閉鎖性水域の特徴」  
○霜鳥 孝一(国立環境研究所)
- (4)9:45~10:00 「印旛沼における連続水質調査について」  
○星野 武司(千葉県環境研究センター)
- (5)10:00~10:15 「湖山池の汽水化にともなう生態系の変化」  
○安田 優(鳥取県衛生環境研究所)

10:15~10:25 討論

10:25~10:35 (休憩)

別添

## セッション 4: 地方環境研における活動

座長: 岩崎 一弘(国立環境研究所)

- (1)10:35~10:50 「埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”に関する被害の現状と取組」  
○三輪 誠(埼玉県環境科学国際センター)
- (2)10:50~11:05 「GC/MS を用いた油種分析による火災原因調査の支援」  
○高村 範亮(福岡市保健環境研究所)
- (3)11:05~11:20 「オンボード実験による船舶排ガス由来 PM の特性評価」  
○中坪 良平((公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)
- (4)11:20~11:35 「中国東北部のバイオマス燃焼由来の PM2.5 越境汚染に関する大気質モデル解析  
—2019 年 3 月北海道における PM2.5 高濃度汚染事例—」  
○浦西 克維(大阪大学、奈良県景観・環境総合センター)
- (5)11:35~11:50 「2019 年 3 月に北海道で生じた PM2.5 高濃度における  
時別有機トレーサー成分観測」  
○池盛 文数(名古屋市環境科学調査センター)

11:50~12:00 討論

12:00~12:10 閉会挨拶

国立環境研究所 理事 森口 祐一

\*\*\*

13:30~14:30 所内施設見学会 ※事前希望者のみ

※講演タイトルに関しましては、変更する場合がございますのでご了承ください。